



研究テーマ

- 1 家畜・動物園動物・愛玩動物・実験動物の適正飼養管理に関する研究
- 2 暖温帯地域における野生動物の保全と管理に関する研究
- 3 動物のユニークな生態・行動・生理現象の解明に関する研究



坂本 信介

さかもと しんすけ
農学部
畜産草地科学科

教授

キーワード

家畜、動物園動物、野生動物、実験動物、哺乳類、鳥類、動物行動学、動物生態学、野生動物管理、保全生物学、社会行動、移動、採食行動、闘争、コミュニケーション、アニマルパーソナリティ、繁殖生態

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

家畜や動物園動物などの飼育動物の適正な飼養管理について、特に、動物の生態・行動・生理や周辺環境との関わりに着目しながら調べています。動物が示すユニークな行動や生態に関する知見は固有の野生生物の保全や野生動物の管理にとって不可欠な情報です。同時に、遺伝子研究が進みPCやネットワークシステムが発展した今日、これらの知見は農学・工学・医学などさまざまな分野で応用研究が可能なシーズになりえます。このような考えから、基礎研究も重視しています。

1 家畜・動物園動物・愛玩動物・実験動物の適正飼養管理に関する研究

動物を良い状態で飼養管理するには、飼育目的を果たすと同時に動物福祉を満たす、バランスの良い方法を考え続ける必要があります。行動指標や体温モニタリングなど多角的な手法を用いて、飼育環境の変化に対する動物の応答を探っています。特に、母子関係などの社会的環境や光・温度などの物理的環境を含む飼育環境が子の成長・発達に与える影響について調べています。また、新たな飼育設備・器具や飼料の効果について、行動試験をおこなっています。

2 暖温帯地域における野生動物の保全と管理に関する研究

地域固有の野生動物は未来の子どもたちへの大切な財産です。これらの保全に関する研究に取り組みます。一方で、野生動物は人にとってさまざまな問題を引き起こします。鳥獣類の移動分散や畜舎への侵入など、農地での行動や生態に関する情報は、動物由来の感染症の研究や田畑の被害削減に貢献できる可能性があります。人々のくらしや産業に役立てることを目的に、暖温帯地域特有の情報を蓄積しています。

3 動物のユニークな生態・行動・生理現象の解明に関する研究

家畜やヒトのストレス応答や季節性疾患、繁殖の季節リズムといった現象は、さまざまな応用分野で注目されているだけでなく、地球温暖化などの環境変動が進む中で生物多様性を維持していく上でも重要です。これらの現象を調べる上で、優れた環境指標動物や実験アプローチを探しています。

4 農業と生物多様性の関係の解明に関する研究

持続可能な地域社会を考えていく上で、人の手によって維持させてきた里山や農地などの環境が生物多様性を支える環境としてどのような状態にあるのかを明らかにすることは重要です。畜産環境を含む周辺環境を中心に、環境と生物の相互作用を探ります。

ホームページ

宮崎大学農学部
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>

技術相談に応じられる関連分野

- ・さまざまな動物の行動観察や解析が必要な研究
- ・野生動物・希少動物の保全に関する研究
- ・動物を用いた実験的検証が必要な研究

メッセージ